

校 内 発 345 号  
令和 7 年 3 月 6 日

保護者の皆様

府立富田林支援学校  
校 長 岡 本 泰 宜  
准校長 向 山 和 子

## 令和6年度学校教育自己診断の実施について(集計結果)

### ～富田林支援学校みんなのためのアンケート～

日ごろは、本校の教育活動にご理解、ご支援をいただきありがとうございます。

今年度も Google フォームを活用し、児童・生徒が入所している施設等の職員の方々、保護者の皆様にご協力いただき、アンケートを実施しました。皆様からご提出いただいたアンケートは合計 152 通で提出率は55.67%でした。

集計結果の詳細については別紙をご覧ください。各設問につきましては肯定的評価と否定的評価を以下のよう  
に区別しています。また、前年度の設問事項の一部の文言を見直して実施しています。

#### 【肯定的評価】

☆☆・・・A+B が90%以上

☆・・・A+B が80%以上、90%未満

#### 回答の選択肢

A：よくあてはまる

B：ややあてはまる

C：あまりあてはまらない

D：まったくあてはまらない

#### 【否定的評価】

★★・・・C+D が10%以上、20%未満

★・・・C+D が20%以上、90%未満

#### 【参考】

△・・・前年度を上回る評価

#### 【全校の結果について】

18問の設問中、16問が90%を超える肯定率であり、前年度を上回る結果でした。肯定率が90%を下回る設問は、前年度と比較すると3つから2つに減少しており、すべての設問で80%以上の肯定率が得られ、全体的には良い評価でした。昨年度評価率が低かった設問10の進路指導に関する項目は肯定率が大きく増加し、高い評価が得られました。

また、学校経営計画において成果指標とした項目の評定は、目標数値を上回る結果が多く、保護者と教員が同じようによくなったと思う項目がいくつも見られました。設問9の進路に関する情報発信においては100%の評定が得られました。

#### 【肯定率が90%を下回る設問について】

〔設問15〕 中学部、高等部で★1つの評定があり、昨年度より評定は全体的に低下した。

障がい理解に関する項目であり、指導方法等、教育活動における保護者の様々な視点からの意見が増えています。児童生徒の障がいの多様化が進む中、一人ひとりの状況に応じた教育を充実させていきたい。

〔設問18〕 小学部で★★2つ、中・高等部で★1つの評定があり、昨年度より評定は全体的に低下した。

全校的には、ICT機器の活用を積極的に行っているが、今後は特別支援学校としてのICTの使用方法（ツール等としての活用や視覚支援を重視した活用等）を中心に評定の改善につなげていきたい。

#### 《保護者からのご意見等、各学部の集計等の結果について》

全体として、学校の設備面等（駐車場や電話回線不足）の意見は依然課題として上がっており、その他に学校との連携に関する内容と教育活動（指導等）に関する内容がありました。以下に各学部からの返答を記載します。

#### 【小学部】

一人ひとりに応じた指導や保護者の思いを教員と共有する環境づくりを日々の教育活動の中で行っていきけるよう今後も努めていきます。引き続き、学校・保護者間の連携・情報共有については今後も担当者や担任を通じて進めていきたいと思っておりますので、ご協力よろしくお願いします。

#### 【中学部】

思春期を迎えた子どもたちへの指導方法（言葉かけを含む）については、教員間で情報や個々の実態を共有しながら体制を整えていくとともに、教員の専門性についても、研修等を活用しスキルアップを図りながら保護者の皆様に安心感を抱いていただけるような教育活動を実施できるよう、今後もしっかりと連携しつつ取り組んでいきたいと思っております。

#### 【高等部】

高等部では、卒業を見据え自立と社会参加に向けて子どもたちの成長を支援できるよう、今後も教育課程をさらに工夫・改善しながら教育活動を実施してまいります。タブレット端末の活用に関しても、教科学習だけにとどまらず、教員や生徒間のコミュニケーションを大切にしながら、子どもたちの『意欲や理解を高めること』『思考を深めたり広げたりすること』『表現や技能を高めること』など、個々の余暇活動にもつながるようなICTの活用に努めてまいります。引き続き、子どもたちを第一に、保護者の皆さまと情報共有しつつ連携させていただきまよう、ご協力をよろしくお願いします。